

平成 2 3 年 度

徳 島 県 立 脇 町 高 等 学 校

学 校 評 価 総 括 評 価 表

平成23年度「学校評価」について

平成24年 3月 23日
徳島県立脇町高等学校
学校評価システム推進委員会

早春の候、みなさまには御清栄のこととお喜び申し上げます。日ごろは本校教育に御支援を賜り心より感謝しています。また、評価アンケートに御協力をいただき、貴重な御意見をお寄せくださり、ありがとうございました。お陰をもちまして、本年度の学校活動も終了することができました。
つきましては、各担当分野の評価ができましたのでお知らせいたします。次年度も本年度の評価を基に改善を図り、さらに教育活動の成果をあげるよう努力してまいります。今後とも、御指導・御支援を賜りますようお願い申し上げます。

〔学校経営〕

自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	学校関係者の意見	
経営方針の明確化とその実践	経営方針が学校内外に明確に示され、教職員間の相互理解と意識改革及び資質の向上を図り、特色ある学校づくりを推進する。	評価指標 職員会議・学年会が情報交換と課題検討の場として機能しているか。 職員の評価 95%以上	年間15回を超える教職員委員会を中心に、脇町高校教職員としての情報と課題の共有を心がけているようである。また、報告・連絡・相談が比較的スムーズに教職員の間で日常化しているように見える。 参加・協働意識が非常に高いように思える。進路指導、学習指導、生徒指導（規範・安全指導）等、教職員の充実感を感じる。 2年目をむかえるスーパーサイエンスハイスクール（SSH）実施の要素や、3年生を筆頭に各学年会の充実を感じる。 評価指標の大幅な改善は、教職員委員会での校外研修の伝達やSSH、コンプライアンスにかかる研修を充実した結果のようだ。 アンケート5の学校自己評価欄で述べられているように、教員が自己満足や錯覚に陥らないように注意が必要であろう。 また、脇町高校としての広報活動をより充実してもらいたい。	(1) 教職員委員会が効果的である。 常に情報と課題の共有を心がけ、各会議の「時間」を確保する。 また、各会議に即した手元資料を用意することを徹底する。 (2) スーパーサイエンスハイスクール（SSH）を充実・発展させる。 (3) 脇町高校としての様々な広報活動を充実する。
		活動計画 経営方針や育成したい生徒像を、教職員・生徒・保護者・地域等に対し、校務運営委員会・職員会・学年会・PTA総会・同窓会・学年保護者会・学校説明会・評議員会・ホームページ等で明確に示す。		
		評価指標の達成度 に伴うアンケート1[職員会議や学年会・教科会が情報交換と課題検討の場として機能している]は肯定的評価(よく当てはまる、やや当てはまる)が100%(評価指標値3.47)となった。また、を補足するアンケート2[各分掌や学年間の連携が円滑]も肯定的評価が83.7%(3.23)と高い。 に伴うアンケート3[本校の教育目標を全教職員が理解し、新しい学校づくりに向け、積極的に取り組んでいるか]は、肯定的評価が初めて80%を超えた。83.8%(3.22)で参加・協働意識が高い。 に伴うアンケート4[教職員の資質向上のために、研修に参加した成果を他の教職員に伝える機会が設けられているか]は、肯定的評価が過去52.3% 43.9% 今年度74.4%(2.91)と、評価指標をクリアはできていないものの大幅に改善中である。	総合評価 (評定) B (所見) 本年度も学校経営基本方針で「教職員の意識改革及び教職員の資質向上」「全教職員の共通理解と協働体制の確立」を挙げ重点的に取り組んでいる。 さらに、各種研修会等の成果を全教職員のものとするために伝達講習等の時間設定を充実した。 また、2年目をむかえたスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の充実と発展を継続する。 加えて、生徒の日常的な学校生活を充実させながら、生徒、保護者、地域への脇町高校としてのきめ細かな広報活動も丁寧に行う。	
		活動計画の実施状況 の実績や効果を評価するためのアンケート5[本校には長い伝統や優れた進学実績、部活動・小論文指導など、生徒や保護者のニーズに合った魅力ある特色が十分にある]の肯定的評価は生徒、保護者、教員ともに高い値で推移しているものの、生徒(90.2%3.34 89.5%3.36 今年度87.7%3.31)と保護者(93.2%3.48 94.6%3.51 今年度92.8%3.47)は過去と比して下がり気味であり、教員(88.7%3.30 90.2%3.49 今年度97.7%3.58)は逆に大きく上昇した。教員が自己満足や錯覚に陥らないように熟慮が必要である。 の2年目をむかえたスーパーサイエンスハイスクール(SSH)のクラスや教育課程、諸事業の充実が軌道に乗り意欲的に取り組んでいる。教職員の参加・協働意識を高める結果となっている。また、3年生を筆頭に各学年会の充実が著しい。さらに、すべての分野での広報活動が重要である。一層の脇町高校ホームページの充実を心がける。		

* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった (注) 評価指標値は、4.00が最高値、1.00が最低値である。

[教務課]

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
単位時間の弾力的運用 授業の工夫改善の徹底	授業改善のための取り組みに対する生徒・教員の意識を高め、授業を中心とした学習活動の活性化・充実を図る。 45分授業の実態の把握及び学習活動の充実 授業内容や指導方法の改善と充実した授業展開 授業改善に対する教員全体の意識高揚 個別指導の充実	評価指標 始業のチャイムは教員・生徒ともに全員が守るように努め、授業時間の確保を心がける。	評価指標の達成度 平成23年度評価指標値()内は昨年度 教員 3.5 (3.5) 生徒 3.2 (3.1)	総合評価 (評定) B	始業時刻については、教員・生徒ともに評価ポイントが昨年度とほぼ同じであった。 シラバスについては生徒の活用を促す工夫が必要であるように思われる。 授業研究については、年々多忙な学校現場の中で、十分満足に実施できない状況になっていると思われる。 学習の遅れがちな生徒に対する指導について、さらに工夫する必要があると感じた。
		「シラバス」をさらに有効的に活用する。	教員 3.0 (2.9) 生徒 2.4 (2.4) 保護者 2.9 (2.9) 教員 2.3 (2.1)		
		授業研究日において、教科を問わず積極的に授業参観を行い、授業力の向上に努める。	教員 3.3 (3.3) 生徒 2.2 (2.3)		
		学習の遅れがちな生徒に対して、個別指導を実施する。			
		活動計画 50分の内容を45分授業で実施できるように、教材研究や授業内容の工夫を図っていく。	活動計画の実施状況 教員は互いに声を掛け合い、始業前に授業教室に移動している。		
		「シラバス」の作成に早く取り掛かり、さらにより良いものにしていく。	学校評価を元に、3学期初めの職員会議で周知し、作成計画を立てている。		
		「授業研究日」に対する共通理解を徹底し、授業参観を行い、授業研究の充実を図る。	考査、実力テスト、模試の結果を教科会・学年会で検討し、授業改善にも努めていく。		
		学習の遅れがちな生徒に対して、家庭学習の大切さを理解させ、個にあった学習方法を提示し、自発的な学習スタイルを確立させる。	正規の補習に加えて、早朝、休み時間、放課後等を利用して特別に学習指導をしたり、学習方法のアドバイスを行っている。		

* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった (注) 評価指標値は、4.00が最高値、1.00が最低値である。

[図書・研究課]

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
<p>人格を陶冶し豊かな人間性を培うための幅広い読書の奨励</p>	<p>主体的、積極的に読書に親しむ生徒を育てる。</p> <p>読書量の増加 蔵書の充実 「朝の読書」の効果的な活用</p>	<p>評価指標</p> <p>貸出総数 前年比 5%増加</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>今年度貸出総数、2,667冊で、前年度よりも増加している。1人当たりの貸出総数は4.1冊でこれも昨年度より増加した。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>読書離れが進む中で、図書館の利用を生徒たちがいかに促していくかが今後の課題である。</p> <p>クラス読書会・校内読書会の実施、「図書館だより」の発行により、多くの生徒が本に親しむことができる環境作りに努めた。</p> <p>「朝の読書」のより効果的な活用方法を再度検討する必要がある。しっかりと本を読む習慣を身につけ、今後の進路における知識等を身につけて欲しいと感じた。</p>	<p>図書貸出総数、1人当たりの貸出総数ともにやや増加している。読書離れが懸念されているが、やや歯止めがかかったように感じられる。</p> <p>本年度は昨年度よりも図書の充実が図られたようで、生徒の要望に応えた図書を購入できたことが、図書館利用の増加につながったように思われる。</p> <p>今後も精選した図書の充実を図り、図書館利用率を更に高めてほしいと思う。</p> <p>「朝の読書」については、本を読む習慣を身につけるうえでは重視されるべきだと感じるが、取り組みについては、方法やそのやり方をしっかりと考えて取り組む必要があると考える。</p>	<p>図書の利用を促すために、今後も校内読書会やクラス読書会を継続して行うと同時に、講演会などの行事も増やしていくといったさらなる工夫を検討していく。</p> <p>職業調べや課題研修、小論文やディベートなどの各学年の学習・行事に対応した図書を引き続き充実させていく。進路に応じた小論文の手引きや書き方など、個々の生徒のニーズに合わせたきめ細やかな対応をしていく。</p> <p>「朝の読書」をより明確に位置づけ、効果的な活用方法と具体的な取り組みについては、教科・各課・各学年それぞれで再度相談・検討する。</p>
		<p>活動計画</p> <p>毎月の「図書館だより」により、新刊図書案内をする。</p> <p>・クラス読書会(年2回)、校内読書会(年1回)を開催する。</p> <p>生徒、各科・課の購入希望図書の調査をする。</p> <p>・人権問題学習、職業調べ、修学旅行課題研究、小論文対策などの関連図書を充実させる。</p> <p>「朝の読書」の時間において「おすすめの本」などの紹介をし、読書への関心を高める。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>「図書館だより」での新刊案内を行った。クラス読書会、校内読書会を開催し、多くの生徒が参加した。</p> <p>生徒及び各教科・各課の購入希望図書の調査を1学期に行った。各学年の学習・行事に対応した関連図書を購入した。またそれ以外にも、希望があれば、随時希望図書を購入した。</p> <p>主に1,2年生を対象に、生徒から「おすすめの本」を聞き出し、教室に掲示するなどして読書への関心を引き出した。</p>			
<p>「学校力」の向上を図るための学校評価システムの運用</p>	<p>P D C A サイクルの検証 教育活動の改善点の把握</p>	<p>評価指標</p> <p>学校評価における総合評価が前年維持か向上</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>学校評価における総合評価はA 13, B 17であった。前年度(A 10, B 24)より向上した。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>A</p> <p>(所見)</p> <p>学校評価システム関連の評価指標は概ね達成できた。</p> <p>本年度の評価と次年度への課題を明確化し、改善策を提示するP D C A サイクルが確立しつつある。</p>	<p>学校評価における総合評価は、1年間の自己評価であり、かつ次年度への課題を明確にするものであり、評価チェックを継続して行う必要があるようだ。</p> <p>学校評価アンケートの結果は、教員のポイントが前年度より大きく増加しているが、生徒ではやや減少、保護者では大幅に減少しているのが、気がかりである。</p>	<p>本年度より学校関係者評価委員会を組織し、「学校関係者の意見」として集約したが、今後も評価システムの運用・検討を行う。</p> <p>評価得点が低いアンケート項目及び要望などについて、各課・各教科で対応できない項目の改善策を次年度に引き継ぐ。</p>
		<p>活動計画</p> <p>学校評価総括評価票を作成する。</p> <p>・昨年度の改善点により、P D C A サイクルに沿った本年度の計画、実践、評価を行う。</p> <p>学校自己評価アンケートを実施する。</p> <p>・昨年度の改善点により、評価指標となる項目の見直し・改善を行う。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>4月に学校評価総括評価表(前半部・後半部)を作成した。昨年度の改善点により本年度の「総括評価表」前半部を、3月に「検証・課題」を作成した。</p> <p>学校評価アンケートは、5月に評価指標となるアンケートの見直しを各課長・学年主任・教科主任に依頼した。アンケートは12月に職員・生徒・保護者対象にそれぞれ実施した。</p>			

* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった (注) 評価指標値は、4.00が最高値、1.00が最低値である。

[環境教育]

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
環境美化・防災に対する生徒の意識の向上	<p>(1) 校内外の環境美化及び環境問題に取り組む態度と実践力を育成する。</p> <p>環境問題に対する意識を向上させる。</p> <p>身の回りの生活から環境を意識した行動を実践させる。</p>	<p>評価指標</p> <p>生徒・教職員ともに校内外の環境美化及び環境問題への興味・関心を持つことができたか。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>(1) 環境美化 ゴミの分別達成度 85 % 1年生の4月に行った郊外体験学習の中での細かな分別指導, 環境 ISO 清掃ボランティアへの参加などを通して環境美化に対する関心の高まると同時に実践力も養われたように思われる。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見) ゴミの分別においては, 生徒一人ひとりの意識も向上し, 実践力も養われつつある。今後も継続しての指導や姿勢が求められる。また, 校内にとどまらず, 校外における環境美化活動にも眼を向けられるようになりたい。</p>	<p>生徒一人ひとりの意識は向上しているようだが, それも教職員の環境美化に取り組む姿勢や指導があるからであろう。校内における環境美化活動においては, 目標はほぼ達成できているようだが, 地域に根ざす学校としては, 校外の環境美化にも眼を向けなければならぬと思われる。</p>	<p>環境美化に対する意識は向上しつつある。しかし, まだゴミ捨て係の生徒や教職員が分別し直している姿を眼にすることも。また, 常に真面目に清掃活動に取り組んでいる生徒は70%で, 残りの生徒の取り組み方は十分でないようである。また, 清掃場所によっても不十分なところもあり, 全体としてはよく見えても, 一人ひとりに目を移すと改善の余地がまだまだ残されている。今後も継続しての指導が必要となる。教職員が見ていないときでも, 美化活動に取り組む姿勢を養っていききたい。</p>
		<p>活動計画</p> <p>環境委員による立ち入り調査を行い, 助言・指導を行う。</p> <p>ホームルーム活動や清掃ボランティア等の実践を通して, 環境問題への関心を喚起し, 実践力を身につけ, 社会の一員としてなすべきことを自覚させる。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>(1) 環境美化 文化祭では, 環境委員がゴミ箱作りを行い, 管理当番を割り当て, 期間中の美化活動を率先して行った。特に後片付け時のゴミの分別は徹底できていた。</p> <p>ホームルーム活動やJRCによる学校周辺の清掃活動や, 「ひかり荘」清掃ボランティア(有志), 生徒会役員・環境委員・有志による大谷川・デレーケ公園周辺の清掃活動など奉仕活動に多くの生徒が参加した。</p>			
	<p>(2) 災害に対する正しい知識を持ち, 的確に対処できる態度や能力を育成する。</p> <p>防災訓練の重要性を認識その対策の大切さを認識させる。</p> <p>災害を人ごととせず身近に起こりうる出来事として, その対策の大切さを認識させる。</p>	<p>評価指標</p> <p>教職員・生徒が, 防災訓練に対して関心を持って積極的に参加できたか。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>(2) 東日本大震災の影響もあり, 防災に関する意識が高まったように思える。 評価指標値 ()内は昨年度 教員 3.35(3.13), 生徒 2.73 (2.52), 保護者 2.69 (2.40)</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>A</p> <p>(所見) 避難訓練においては, 参加体験型の訓練実施により, 生徒がより主体的に取り組むものと思われる。</p>	<p>防災避難訓練においては, グランドへの避難訓練だけでは今ひとつ緊張感に欠けるように感じられる。しかし, 東日本大震災で災害に対する危機感を肌で感じ, 防災に対する意識は自然とついたのでないか。</p>	<p>防災避難訓練ではほとんどの生徒は真剣に取り組むことができていた。災害は誰の身にも起こりうるものである。すべての生徒が主体的に, 自分の問題として取り組むような指導が今後も必要となる。</p>
		<p>活動計画</p> <p>年2回の防災訓練を実施する。 防災計画に対する周知徹底を図り, 職員間での連携を持つ</p> <p>防災訓練では参加体験型訓練など, 体験を重視した活動を取り入れる。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>(2) 防災意識 年2回(1学期, 3学期)防災避難訓練を実施。</p> <p>3学期にはグラウンドへの避難訓練だけでなく, 生徒が参加・体験できる消火訓練やシューターによる避難訓練を実施する予定である。</p>			

* 「評定」の基準 A: 十分達成できた B: 概ね達成できた C: 達成できなかった (注) 評価指標値は, 4.00が最高値, 1.00が最低値である。

[渉外課]

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
P T A 活動の活性化	P T A 参加行事の出席率の向上を目指す。	評価指標 前年度より出席率を 5 %以上の増加を目指す。	評価指標の達成度 P T A 総会の出席人数は 272 人で率にすると 41.9%と前年度の 41.6 %とほぼ同じであった。しかし、共働きの御家庭も多く、土曜日に仕事に出られている保護者も多いなか、大勢の方に来ていただき感謝している。欠席者には委任状を提出してもらい、総会の運営を円滑に進めることができた。	総合評価 (評定) A (所見) 今年は両項目ともほぼ目標を達成することができた。引き続き目標の数値を達成することができるよう P T A 活動の活性化のために工夫していきたい。	今年も保護者の方々の御協力により、充実した P T A 活動を運営することができた。P T A 総会の参加率は昨年とほぼ同じであったが、家庭教育研修部を中心とした行事等への参加者は年々増加している。男性の参加者も増え、各行事にもさらに活気が感じられる。さらに、充実した P T A 活動になるよう努めていきたい。
		保護者に最低でも 2 回は学校行事に参加してもらう。	P T A 理事会・行事等で保護者の学校への来校数は延べ約 1000 名であった。さらに、進学課、学年団と連携して夏休み及びセンター試験前後に三者面談を加えると約 1900 名の方に来校していただいたことになる。保護者 1 名当たり年間約 3 回と、数値目標として定めた「保護者に最低でも 2 回は学校行事に参加してもらう。」という目標は達成できたので評価できる。		
		活動計画 学校と保護者の連絡を密にする。	活動計画の実施状況 P T A 会長を中心に学校・保護者が連携を密に取り、とても評価のできる 1 年であったと考えられる。		
		魅力ある P T A 行事を催し、積極的に参加をしてもらう。	家庭教育研修部も、男性の部長が積極的に活動していただき、体育祭でのバザーなどの P T A 活動の活性化に力を入れていただいた。今後とも生徒・保護者の願いを心に刻み一層の努力をしていきたい。		

* 「評定」の基準 A : 十分達成できた B : 概ね達成できた C : 達成できなかった (注) 評価指標値は、4.00 が最高値、1.00 が最低値である。

[生徒指導課]

重点課題	重点目標	自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価	総合評価	学校関係者の意見	
基本的な生活習慣の育成 安全教育の推進 問題行動の防止	(1) 基本的な生活習慣を確立させる。 (2) 生命の尊重と安全教育の推進を図る。 (3) 家庭・地域社会・関係機関との連携を強化していく。	<u>評価指標</u> (1) 服装・頭髪の違反者をなくし、遅刻する生徒が減少するようにする。あいさつができるようにする。 (2) 交通事故が0になるようにする。 (3) 問題行動を起こす生徒がなくなるようにする。 <u>活動計画</u> (1) 服装・頭髪について各クラス・各学年・学校全体で指導を強化する。朝のあいさつ運動を毎月実施する。 (2) ・バイクの安全運転実技講習会を開く。 ・車体検査を各学期に行う。 ・登下校指導を毎月行い、生徒に交通安全について呼びかける。 (3) すべての生徒について、個人面談や家庭連絡を密に行う。関係機関との情報交換を密に行う。	<u>評価指標の達成度</u> (1) 身だしなみの違反者はなくなっていないが、違反者に対する指導について取り組みはできた。なお、服装等への評価指標値(評価ポイント)は、教職員3.19, 生徒3.10, 保護者3.29である。あいさつは積極的にできる生徒が増えてきた。 (2) 交通事故は昨年とほぼ同じであった。 (3) 問題行動は昨年と比べ減少した。しかし、問題行動として個別指導できていない事例が多かった。 <u>活動計画の実施状況</u> (1) 服装・頭髪の指導について各クラス・各学年・学校全体で共通理解を図り指導強化に努めたがまだ不十分である。朝のあいさつ運動は毎月実施でき、生徒会役員と各クラス生活委員及び各部活動代表者の参加状況も良好であった。 (2) ・バイクの安全運転実技講習会を実施した。また、積極的にバイク通学生集会を行った。 ・各学期に車体検査が実施できた。 ・毎月の学校安全日に登校指導が実施できた。下校時に量販店への校外巡視を実施した。 (3) すべての生徒に個人面談を実施した。また必要に応じて家庭連絡が密に行われた。補導センターとの合同補導, 美馬地域高等学校生徒生活指導連絡協議会, 脇町小・中学校生徒指導連絡協議会, 学校警察連絡協議会, 補導員連絡協議会に出席し関係機関との情報交換が密に行われた。	<u>総合評価</u> (評定) B (所見) 身だしなみの指導, あいさつ運動の実施など基本的な生活習慣についての指導に対する生徒の意識が低く, 交通事故件数が多かった。問題行動については生徒の規範意識が高くなったように感じた。しかし, 問題行動として個別指導できていない事例が多かった。また, 貴重品管理の生徒意識の高揚を積極的に推進しなければならぬと感じた。多くの生徒が基本的な生活習慣を確立できつつあるように感じた。	(1) 基本的な生活習慣について, 現在は, 各学期末における出欠統計で遅刻と早退が別々になっていないため, 遅刻のみの正確なデータが得られないようである。教務課と相談し, 遅刻と早退を別々に記録できるよう改善する必要がある。現在の方法を維持していくが, 各担任や学年の意見を聞きながらよりよい方法を考えて今まで通り今後も継続して行うようにする。そしてよりよい方法について意見を求めていく必要があるだろう。 (2) 交通安全については, 現在行っている各学期の車体検査と2学期に行うバイクの安全運転実技講習会に加えて, 各ホームルームや学年集会での指導を検討し, 生徒の交通安全についての意識改革を行う必要がある。 (3) 各関係機関との情報交換はこれまでどおり密に行っていくが, 特に警察署との情報交換をさらに密に行うようにする。	(1) 遅刻の常習者に対する指導をどのようにするか, 各担任や各学年団と相談し, 考えていく必要がある。また, 身だしなみ等の指導についてもよりよい指導法を考えなければならぬが, ほぼ良好であったので, 継続指導を行います。また, 貴重品管理の生徒意識高揚を積極的に行わなければならない。 (2) 生徒の規範意識が全体的に低下してきていると感じられるため, 生徒の規範意識を向上させるにはどのような指導が必要か考えていかなければならない。しかし, 改善された一面も感じる事もできたので, 改善指導と継続指導の両方を使い分け, 規範意識の向上に努める。 (3) 生徒の交通安全に対する意識が低いので, ホームルーム活動や学年集会, 学校行事などを利用して, 生徒の交通安全に対する意識の高揚を図る必要がある。

* 「評定」の基準 A: 十分達成できた B: 概ね達成できた C: 達成できなかった (注) 評価指標値は, 4.00 が最高値, 1.00 が最低値である。

[進路課]

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
望ましい職業観や進路意識を有し、主体的・創造的に学習へ取り組める生徒の育成及び希望進路を実現する。	(1) 望ましい職業観や進路意識を育成する。	評価指標 該当項目の評価アンケート 生徒 2.8 以上, 保護者 3.0 以上	評価指標の達成度 進路学習の満足度 生徒 3.0 (昨年 3.1) 保護者 3.1 (昨年 3.1) 進路指導の満足度 生徒 3.2 (昨年 3.3) 保護者 3.1 (昨年 3.2) ・目標とする評価指標を上回った。 (注) 学校評価アンケートより 4.0 が最大値, 1.0 が最小値	総合評価 (評定) A (所見) 進路指導関係事業は SW-ing プラン関連事業を中心に多様な取り組みが展開できた。岡山大学オープンキャンパスへのバス送迎も希望者が増え定着してきた。さらに生徒の志望形成に役立つ取り組みの充実を図りたい。	・進路課主管だけでなく総合的な学習の時間を管理する特別活動課との連携事業や、新たに始まった SSH 事業など、進路に関する取り組みが増えたので、今後は学年全体・学校全体での評価サイクルが持てるように検討した方が良いであろう。
		活動計画 W-ing プラン / SW-ing プランの活動, 職業調べ, 学部・学科研究, 講演会等に積極的に取り組む。 進路講演会 (生徒, 保護者対象), SW-ing レクチャー等を実施する。 進路情報をわかりやすく提供する。	活動計画の実施状況 1 年生の夏休みに職業体験 (職場訪問) を, 2 年生 9 月の修学旅行で職業体験を実施し, 発表会を行った。優秀作品は進路室前に掲示した。SW-ing プランの各事業もほぼ予定通り実施できた。 進路講演会 生徒対象 2 回 (6 月, 11 月), 保護者対象 2 回 (6 月, 11 月) 実施した。また, SW-ing レクチャーも事前に設定したテーマに基づいて予定通り実施できた。 進路に関わる情報提供では, 進路情報誌「道標」やホームページを通じて実施した。また, 昨年に引き続き, 岡山大学オープンキャンパスに合わせて参加者に対する送迎バスを運営した。		
	(2) 主体的・創造的な学習者の育成を図る。	評価指標 家庭学習時間 平日 3.0 時間以上, 休日 5.0 時間以上 (1, 2 年生)	評価指標の達成度 平均家庭学習時間 (注) 5 回の家庭学習時間調査の平均による 平日 1 年 2.4 時間 (昨年 2.5 時間), 2 年 2.3 時間 (昨年 2.2 時間), 3 年 3.7 時間 (昨年 3.5 時間) ・全体的に年度後半になって増加した。特に 3 学年の増加は著しく, 目標を達成することができた。	総合評価 (評定) B (所見) 学習習慣が身につけてない様子が家庭学習時間の少なさに見える。1・2 学年の 1 学期の間に強い習慣づけを行う必要がある。	
(3) 個々の希望や適性に応じた進路実現を図る。		評価指標 センター試験出願率 90 % 以上 国公立大合格率 卒業生の 50 % 以上 公務員 1 次合格 受験者の 50 % 以上 (防大を除く)	評価指標の達成度 センター試験出願率 95.0 % (昨年 95.7 %) ・昨年より少し低下したものの, 目標を大きく上回った。 国公立大合格率 39 名 (2 月 28 日現在 昨年同期 44 名) ・最終結果未定だが, 昨年同期実績を下回っている。 1 次合格率は 35.7 % であったが, 3 名が公務員に最終合格し, 2 名が就職を決定することができた。	総合評価 (評定) B (所見) 大学等合格実績は推薦終了時点では, やや厳しい結果である。最後まで指導に全力を注ぎたい。	・合格実績の詳細は 4 月上旬に判明するので 2 月中では総合評価を行うことは難しい。年度最終集計を用いて検討したい。
		活動計画 面接指導の充実を図る。 小論文, ディベート学習の充実を図る。	活動計画の実施状況 面談を学年毎に長期休業後や大きな行事後に実施。特に 3 年生は進路決定に向けて個人毎に必要なに応じて実施した。 小論文指導では採点担当者による講演会, ディベートも工夫して取り組み, おおむね好評であった。		

* 「評定」の基準 A : 十分達成できた B : 概ね達成できた C : 達成できなかった 評価指標値は, 4.00 が最高値, 1.00 が最低値である。

[特別活動課]

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
集団や社会の一員として協力して諸問題を解決して行こうとする生徒の減少	(1) ホームルーム活動・生徒会活動の充実。	<p>評価指標</p> (1) 当該項目の評価アンケート，生徒2.8以上を目指す。	<p>評価指標の達成度</p> (1) 指標値平均 3.09 で数値目標は達成できた。	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> 全体的に向上しつつある。	ホームルーム活動や生徒会活動を充実させることで，生徒が安全で安心して元気に学校生活を送れることが大切であり，基本的な事柄が有機的にスムーズに連携をとりながら運用されることがもっとも大切と思われる。	本年度途中より学校全体で取り組んだ，省エネ活動のような，学校全体で身近な社会問題を考えることができ，かつ達成感のある企画を積極的に取り入れる。
		<p>活動計画</p> ホームルーム活動の内容について各課との連携の強化を図る。 生徒会主催行事の成功を支援する。 生徒総会の意義を理解させ，活性化と内容の充実を図る。	<p>活動計画の実施状況</p> 各課と横の連絡を密にし，効率的な運用がある程度図ることができた。 地域社会の活性化会議に参加させていただき，協力をいただきながら企画を実現することができた。 十分な内容ではない。今後に改善が必要と思われる。			
	(2) 学校行事，部活動・自主活動の充実。	<p>評価指標</p> 安全で有意義な学校行事の設定と展開。 運動部・文化部ともに複数部の全国大会出場	<p>評価指標の達成度</p> 予餞会の内容をアンケートを実施しながら見直すことができた。 女子ソフトテニスが団体・個人で男子ソフトテニス個人で，文化部では新聞・写真部と放送部が出場を果たした。	<p>(評定)</p> <p>A</p> <p>(所見)</p> 生徒が輝ける場の演出を今後も心がける。	学校行事の内容は変化しなくてはならない部分と，継続を重要とする部分と両方あると思われるが，関係各位と十分に連携をとりながらの実施が必要と思われる。 部活動を含む自主活動は，今後生徒数の減少を考慮した検討が必要と思われる。	安全で有意義な学校生活を生徒が送れるような環境を少しでも改善し整えることが引き続き課題である。
	<p>活動計画</p> 各学年，各課との連携の強化を図る。 1年生の部活動全員登録制と運動部複数顧問制の維持。	<p>活動計画の実施状況</p> おおむね達成できた。 実施できた。				

* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった (注) 評価指標値は，4.00 が最高値，1.00 が最低値である。

[保健厚生・教育相談課]

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
心身の健康の保持増進	(1) 保健教育を推進する。 W-ing レクチャーの開催 保健指導の充実 (食育推進, 感染症予防, 歯の健康等)	評価指標 W-ing レクチャーの開催 (学年毎に1回以上) ・集団及び個別保健指導の実施(適時) ・保健だよりの定期的発行(10回以上)	評価指標の達成度 1年生は1回, 2・3年生は2回 W-ing レクチャーを開催した。講演後の生徒の感想文から, 学習目標の達成度の高さが感じとれた。 ・集団指導を3回, 他適宜保健室にて個別に保健指導を行った。 ・保健だよりを年10回発行した。	総合評価 (評定) A (所見) 評価指標関連については, 達成できた。保健教育を行うことにより関心度・理解度を高められていると思われるが, 実践する力になっているかについては評価が困難である。	W-ing レクチャーや, 集団及び個別の保健指導により, 効果的な保健教育が進められていると思われる。	さらなる保健教育の推進のために, 生徒の興味・関心が高まるテーマの講演会や保健だよりに, 集団・個別指導を実施していく。また, 生徒や学校の実情や問題点の把握に努め, ニーズに即した内容になるよう検討していく。
		活動計画 生徒に興味や関心を持たせる。 ・W-ing レクチャーの主題設定及び講師を選択する。 ・進行は保健委員会で行う。 必要に応じて, 対象や方法を工夫して, 効果的な保健指導を行う。 ・時節や生徒のニーズに応じた内容を盛り込んだ保健だよりを発行する。	活動計画の実施状況 次の講師・演題で W-ing レクチャーを実施した。 1年 大塚製菓株式会社 久保恵美子氏 「スポーツ時における水分補給-知って防ごう熱中症-」 1・2年 助産師 野口三恵子氏「いのちの誕生に立ち会って」 3年 ホウエツ病院 櫻原道治医師・塩田由香利管理栄養士 「受験前の健康管理」 ・進行・お礼の言葉等は保健委員会で行った。 ・入学時や行事前に学年集会の場を活用して集団指導を行った。 ・保健だよりに(A4表裏)を定期的に発行し, 生徒へ配付した。時節に合わせた内容で情報提供することにより, 健康管理への意識の高揚を促した。			
	(2) 保健管理の充実を図る。 定期健康診断の充実 救急体制の充実 健康相談活動の充実	評価指標 生徒全員が定期健康診断を受診し適切な事後管理ができる。 ・教職員対象救急法講習会の実施(年1回) ・該当評価アンケート教職員80%以上 健康相談活動の実施及び教職員・保護者等との連携	評価指標の達成度 詳細な計画や教職員の協力により, ほぼ全員が定期健康診断を受診することができたが, 数名, 未検診項目のある生徒がいた。 ・教職員対象の救急法講習会を1回実施した。 ・年度途中でのガイドラインの変更があり, 職員全員に資料の配付と説明を行い, 周知に努めた。 ・評価アンケートにおける満足度は88.4% 必要に応じて健康相談活動を実施し, 担任や部活動顧問・教育相談課員, 保護者と情報交換や話し合いを行った。	総合評価 (評定) B (所見) 評価指標関連では, 健康診断後の要精密・要治療の生徒全員が受診できていない点において課題が残った。その他については概ね達成できたと思われる。	精密検査や治療が必要にもかかわらず受診できていない生徒に対しては, 学校と家庭が連携して受診を勧めるなど事後指導を徹底してもらいたい。 AEDの使用や心肺蘇生法など緊急時に誰でも適切な対応ができるよう, 救急法の講習会や救急体制の充実さらに努めてほしい。	健診診断を全員が漏れないように受診できるように, 日程の調整や個別指導を充実させていく。また, 健診診断実施後の事後指導についても, 複数回にわたり受診勧告を行うようにして改善に努めていく。 さらなる校内救急体制の充実のために, 来年度の教職員対象の救急法講習会ではシュミレーション研修も取り入れていく予定である。また, 生徒対象の救急法講習会も充実させていく。
		活動計画 計画的かつ能率的に健康診断を実施し, 事後指導を徹底する。 救急法講習会を実施し, 校内救急体制が機能できるようにする。 適切な健康相談活動の実施とともに問題解決のため, 教職員・保護者間の密な連携を図る。	活動計画の実施状況 ・事前に計画を教職員・生徒へ周知し, 当日の健診の際に効率よく実施できるようにした。 ・事後措置については, コンピュータでデータ管理することで正確な通知配布ができ, また未検診項目がある生徒や要精密の生徒を明確にし, 通知することができた。 ・要精密・要治療の生徒で受診できていない者がいた。 5月に, 出張・年休以外の全ての教職員を対象に実施した。(講師 美馬市消防本部より4名) 年度初めの時期に実施することで, 手技の確認や校内救急体制の意思統一を図る機会となるようにした。 些細な内容と思われることでも, できるだけ早期に担任や教育相談課員に情報提供し, 対応について話し合いを行った。また必要時, 保護者や専門機関等との連携を図った。			

教育相談活動の充実	教育相談活動の充実により、生徒が健全な学校生活を送れるように支援する。	評価指標 学校評価アンケートの評価得点を昨年度より上昇させる。	評価指標の達成度 生徒・保護者・教員すべてで、評価得点が昨年度より上昇した。	総合評価 (評定) A ----- (所見) 評価指標については目標を達成できた。担任を中心に悩み相談はよくできていると思われる。	相談室を利用する生徒は少なくても、いつでも相談に応じることができ体制は維持してほしい。	「生活の記録」等の活用により、悩みを持つ生徒の早期発見に努め、担任や学年主任との連携をさらに深めて相談活動を充実させたい。
		活動計画 個々の生徒の悩み相談を行い、生徒の自立を支援する。	活動計画の実施状況 担任・養護教諭を中心に相談活動を行い、関係者で連携をとって支援を行った。			
		毎日、昼休みに教育相談室にて「何でも相談室」を設け、相談に応じる。	「何でも相談室」の利用者はほとんどなかったが、生活の記録等を通して担任が早期に相談に応じたり、保健室の利用等により悩み相談はできた。			
		教育相談活動について生徒や保護者への周知を図る。	保健だよりなどを利用し、周知に努めた。			
校内支援体制の充実	校内支援体制を整備する。不登校生や特別支援の必要な生徒及びその保護者への支援を充実させる。供	評価指標 教育相談及び特別支援に関する校内支援体制を整備する。	評価指標の達成度 教育相談体制及び不登校生への対応に対して、昨年度より評価得点が上昇した。	総合評価 (評定) A ----- (所見) 計画は達成できた。研修の内容も適切であったと思われる。	不登校生の学力保障について、他校の例などを参考に支援方法を考えてほしい。	不登校生の学習指導の在り方を検討し、より適切な支援が行えるようにしたい。
		生徒・保護者・教職員に対し教育相談・特別支援に関する情報の提供を行う。	ホームページや校誌を利用して情報を提供したり、問い合わせに答えたりした。			
		教育相談・特別支援に関する職員研修会を1,2学期に1回ずつ実施する。内1回は外部講師を招いて行う。	計画通り実施できた。2学期には香川大学の坂井聡准教授を招いて「発達障がいのある生徒の理解と支援」について研修を行った。			
		活動計画 巡回相談事業や相談機関についての情報提供を適切に行うとともに専門機関との連携が必要なケースでは斡旋や連絡調整を行う。	活動計画の実施状況 学校のホームページに研修会や巡回相談の案内を掲載したり、校誌に相談機関の情報を載せたりして情報提供を行った。			
		生徒の実態や教職員の希望に応じた研修会を実施する。	生徒の実態を調査したり、教職員の希望に応じる形で研修会が実施できた。			教職員だけでなく、生徒に対しても啓発のための研修を行い、学校全体で特別支援の必要な生徒を支えられる体制を整えたい。

* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった (注) 評価指標値は、4.00が最高値、1.00が最低値である。

[人権教育課]

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
人権教育の推進	本校教育の全領域における人権教育の推進 人権を尊重する精神の徹底 人権問題に積極的に取り組む実践的な態度の育成	評価指標 すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われているか。評価指標 前年よりポイントアップ。	評価指標の達成度 評価指標値は教員 3.42 (+0.18), 生徒 2.94 (+0.27), 保護者 2.95 (+0.14)。前年よりポイントアップした。	総合評価 (評定) B (所見) 評価指標関連については概ね達成できた。 人権「いのち」の会の生徒の主体的な活動を中心に展開し教職員の研修, 保護者啓発の推進を引き続き努めたい。	来年度の「本校の人権教育」の検討を重ね, 計画を見直し, 全領域における人権教育を実践する。 今後も人権問題解決に向けて, 外部講師を招へいする。学校と家庭との情報の共有についてもさらに取り組みを行う。 生徒の主体的な活動ができるように事前の検討会を十分に行う。
		生徒は人権問題について学んだことを, 日常生活に活かそうとしているか。評価指標 前年よりポイントアップ。	評価指標値は教員 3.42 (+0.18), 生徒 2.67 (+0.11), 保護者 2.81 (+0.14)。前年よりポイントアップした。		
		人権学習ホームルーム活動について生徒の満足度 85%以上	人権学習ホームルーム活動の授業評価での生徒の満足度は, 89% (主体性 87%, 生徒の理解度 91%)。		
		活動計画 「本校の人権教育」の作成を通して, 各学年・各教科で年間計画を検討する。 ・職員研修は, 学期に1回計画する。	活動計画の実施状況 「本校の人権教育」を作成し, 各学年・各教科で年間計画を検討した。 ・職員研修は, 外部講師(7月, 12月), 人権教育課(3月)による校内教職員研修を行った。 「人権文化の花を咲かせよう」人権指導員 小笠泰史さん 「人権が尊重される社会の実現をめざして～差別の実態から見えるもの～」部落解放・人権徳島地方共闘会議幹事 山川一美さん		
	人権問題講演会や「協高人権の日」学校が行うPTAや学年部会, また担任が行う保護者面談等において啓発を行う。	5月PTA総会に講演「デートDV実態調査からみえること」西部こども女性相談センター所長 横納 順子さん。 11月に人権問題映画上映会「めぐみ～引き裂かれた家族の30年～」。 2月人権問題講演会「『生きる』ということ!」人権指導員 廣島 義和さん。 「協高人権の日」は年6回実施, 資料を各家庭に持ち帰らせ, 家庭での話し合いのきっかけとなるような取り組みを行った。 人権「いのち」の会報を復刊した(年3号発行)。			
	人権学習ホームルーム活動は各学年で事前に検討会を行う。指導案, 資料の共有化を図る。参加型体験学習の導入など, 生徒の体験を重視した指導を行う。	人権ホームルーム活動の前に各学年で指導案の検討を行った。 指導案・資料は, ネットワークの書き込みフォルダにデータを保存し, 共有・活用できるようにした。 7月の教職員研修で, 参加型体験学習の実践・研修を行った。			

* 「評定」の基準 A: 十分達成できた B: 概ね達成できた C: 達成できなかった (注) 評価指標値は, 4.00が最高値, 1.00が最低値である。

[情報・視聴覚課]

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
ホームページによる情報提供及び視聴覚機器の提供	<p>随時ホームページの更新を行い、コンテンツの充実に努める。</p> <p>授業・校内行事における視聴覚機器の積極的利用を推進する。</p>	<p>評価指標</p> <p>CMS（コンテンツマネジメントシステム）の利用により更新作業を分業し必要な情報の即時発信に努める。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>ほぼ達成できたが、さらに充実を要する。</p>	<p>総合評価 (評定)</p> <p>A</p> <p>(所見) 情報・視聴覚機器は様々な場面で積極的に活用されるようになってきた。学校ホームページは頻りに更新されているものの担当によって更新頻度のばらつきがある。</p>	<p>インターネットの普及によってホームページによる情報提供は有効で重要になっている。有意義な情報が提供できるよう取り組みを継続してほしい。</p> <p>情報視聴覚機器については引き続き整備・管理に努め積極的に活用できるように各担当者をサポートしていく。 ホームページについての情報更新を職員に呼びかけ、見る人にとって必要な情報が即時提供できるように職員に呼びかけていく。また、生徒や保護者の認知度を上げるために広報を行う。</p>
		<p>必要ととき、必要な情報機器を最適な状態で提供する。</p>	<p>講演会や研修会ではパソコンやプロジェクター、ホームルーム活動等ではさくらスタジオが有効に利用された。</p>		
		<p>活動計画</p> <p>テンプレートの作成により各課・各担当との連携を容易にする。積極的に更新の依頼を各課・各担当に行う。</p> <p>授業における視聴覚機器の使用をサポートし、視聴覚機器の整備・管理に努める。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>各課・各担当によって理解・技能に差があり、一層の強化を要する。</p> <p>必要なサポートを行うように努め、成果があった。</p>		
業務用ネットワーク環境の充実	<p>情報セキュリティポリシー実施手順にそったネットワーク運用を行う。</p> <p>システムのセキュリティ強化、ネットワークの使いやすさを向上させる。</p>	<p>評価指標</p> <p>情報セキュリティポリシー実施手順にそった運用ができるように職員の意識を向上させる。 セキュリティ確保のための対策を行う。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>全体的に職員の意識は向上したが、ばらつきがある。さらに充実を要する。</p>	<p>(評定)</p> <p>A</p> <p>(所見) 情報セキュリティについてネットワーク設定対策や職員の意識向上の面で成果があった。</p>	<p>社会的にも情報セキュリティ対策の一層の強化を求められている情勢にあるので、職員の意識向上とスキルアップのための取り組みを継続してほしい。</p> <p>情報遺漏等の事故を未然に防ぐため職員の意識向上とネットワークセキュリティ対策を引き続き行っていく。ネットワーク担当者の技能不足については総合教育センターと連携しながら行っていく。</p>
		<p>活動計画</p> <p>職員会議等を利用し、呼びかけや研修等を行う。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>毎学期セキュリティ対策の研修を実施した。また、月に一度のウイルスチェックの呼びかけをした。</p>		
		<p>WSUS の導入、ウイルスソフトの監視自動化を行う。</p>	<p>WSUS（アップデート自動化）、ウイルスソフト監視自動化の設定を行った。</p>		

* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった